from France

猫専門の行動カウンセラー 猫と幸せに暮らすには？

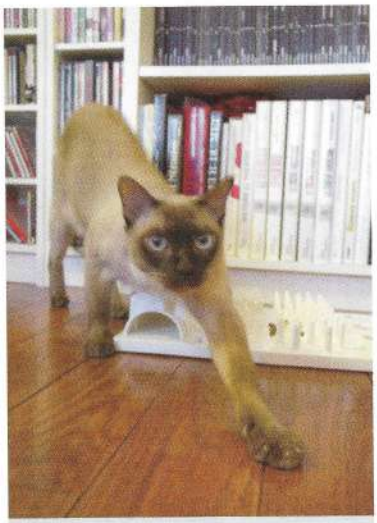
パリ10区に住むソフィー・ボー・モンタニェさんはフランスでもまだ数少ない、「猫専門」の行動カウンセラー。トイレの躾やマーキング、同居猫や人との関係、爪とぎ、食事、夜鳴き、攻撃的な態度や怯え、ストレスやトラウマ……猫と暮らす中で生じるこれらの問題を、飼い主さんの自宅を訪問し、猫と飼い主さんの生活を把握しながら、解決に導いていく。

飼い主さんにとって不都合な猫の行動も、猫にとっては悪気がない。「猫は人に支配される動物ではないので、怒鳴ったり叩いたりしても、『嫌なことをされた』と記憶するだけで、根本的な解決にはなりません。相談でもっとも多いのはトイレの躾やマーキングですが、人にとっての粗相も、猫は理由があってしています。猫を理解した上で、それぞれの猫が必要とする環境を探していきます」。

ソフィーさんは「猫がハンターであること」を尊重している。「猫のハンターとしての欲求を満たすためには、とくに室内飼いの場合、キャットタワーや家具の配置で室内に高低差を設けたり、猫じゃらしなどで充分に運動させてあげることが大切。食事も転がすとカリカリが出てくるボール状の器に入れるなど、遊びの要素を取り入れます。縄張り意識もあるので、猫が心から『自分の場所』と思える場所を作ることも重要です」。また猫は相反する性質も持っているという。「猫は単独の行動を好む」方で、社会性もあります。引っ越しや、人や他の猫の出入りなどの変化に繊細ですが、環境適応能力も優れている。一般的には独立心が高いとよく言われますが、そうでもありません。基本的には人がいなくても生きていく能力は持っているけれど、飼い猫の場合、やはり人の存在に頼っています。これらの大まかな個性は、生後3ヶ月までの環境で決まりますが、各猫の個性は実に多彩。彼らの個性と上手く付き合い、伸ばしていきたいですね」。

ソフィーさん自身も幼い頃から猫と暮らし、現在も2匹の猫を飼っている。「パリでは散歩の手間の無さなどから、犬派から猫派に変わる人も多いのですが、『猫は放っておいても大丈夫』という考えは間違いでしょう。遊びなど、猫も飼い主さんからの日々の刺激を求めています。退屈させることはよくありません。ただし溺愛することも問題でしょう。猫に過大な感情移入をしたり、人のように扱っても、『猫は猫』なのです。また猫かわいがりは猫にとってストレスになることも。適度な距離感が、猫にとっては快適なのだと思います」。一緒に過ごしていても、猫には猫の世界がある。その世界を理解し尊重することが、猫と幸せに暮らす秘訣であるようだ。

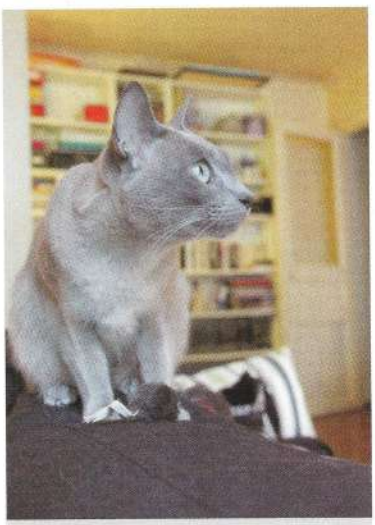
（写真・文 堀 晶代）



愛猫・デリオの足元にあるのは、迷路状になったカリカリ入れ。カリカリにじゃれながら食べることができる



ソフィー・ボー・モンタニェさん。フランスで認定された動物行動カウンセラーの資格を持つ



愛猫のカリスト。デリオと同じトンキニーズという猫種で、好奇心旺盛



室内飼いの2匹が飽きないように、いろいろな猫じゃらしを用意している